

農繁期

レポート

令和6年 8月号

ニールファーム

オーナー 株式会社 新流
産地 三重県伊賀地区
水田面積 9.0アール
保証量 玄米252kg
形態品種 無農薬栽培コシヒカリ



生産者 (株)ツーライフ農園:北出 茂樹さん

三重県伊賀市は、7月17日から熱中症戒アラームが連日発令され続けています。そして、1週間前まで雨も降らず、とんでもない天候が続いています。このような天候ではありますが、田に入れる水だけは豊富で助かっています。稲の生長は、天候も影響し1週間程度稲刈りが早まり、8月20日頃から稲刈りを始めたところがちらほら…。私は直撃を心配している台風10号が過ぎ去ってから稲刈りをスタートさせようと思っています。

8月の作業内容と稲の生長

1.出穂(しゅっすい)

茎の中で籾の集合体としてできた「穂」がさやを割って飛び出した状態を出穂と言います。最初は真っすぐピンと上に伸びています。その後すぐに花が咲き、受粉した籾がお米へと徐々に変化していきます。

2.出穂後の稲-1

出穂後の晴天がお米を作ります。日中に葉で光合成が行われ、出来たブドウ糖が夜稲に送り込まれデンプン=米になります。山間部は昼夜の寒暖差が大きく夜の気温が低いのでデンプンが消費されず蓄積して美味しくなります。

3.出穂後の稲-2

デンプンは最初ドロドロとしたミルク状の液体で徐々に固まっていきお米になります。固まると重たくなって穂が垂れ下がり、同時に籾の色も黄金色に変化します。よく言われているのは穂が出てから1000度が刈取り適期です。

4.カメムシ防除

穂が出揃う時にカメムシ防除を行います。畦付近の草から田んぼに侵入し、奥まで飛ぶことは少ないので周辺を重点的に対応します。カメムシを放置するとお米の品質や見栄えが悪く、商品にならなくなるので必須作業です。



出典:JAグループ

